

(四国地方整備局からのメッセージ)

◆◆◆四国地方整備局トピック 2017. 1. 10◆◆◆

\*\*\*\*\*

謹んで新年のお慶びを申し上げます

平素より四国地方整備局の業務にご理解、ご協力を賜りお礼申し上げます。皆様におかれましては、よき新年を迎えられたことと存じます。平成29年の年頭にあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、河川関係では那賀川床上浸水対策特別緊急事業の着手、横瀬川ダム本体建設工事の起工など、道路関係では国道33号高知西バイパス枝川IC～天神IC間の開通、国道55号高知南国道路なんこく南IC～高知龍馬空港IC間の開通、松山外環状道路インター線の全線開通など、港湾関係では高知港海岸直轄海岸整備事業の着手など、四国地方整備局の実施する多くの事業において着工・完成などの大きな進捗をみることができました。これもひとえに関係する皆様方のご理解とご協力のお陰であり、心より感謝申し上げます。

昨年4月に発生した熊本地震に際しては、災害の迅速な復旧を支援するために、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）として職員110名（のべ派遣日数766人・日）と災害対策用機械を派遣するとともに、船舶を派遣して支援物資の輸送を行いました。

一方、夏には小雨の影響で、吉野川水系（早明浦ダム）では平成26年以来2年ぶりに、また仁淀川水系（大渡ダム）では平成25年以来3年ぶりに濁水調整を実施し、四国地方整備局では、8月15日から9月21日に至るまでの38日間濁水対策本部を設置し、吉野川水系水利用連絡協議会の開催や濁水情報の発信などを行いました。さらには9月の台風16号による降雨の際には、中筋川ダムの防災操作により河川水位を低減させ、これにより越水による堤防決壊を回避することができました。

また11月5日には高知新港をメイン会場として、四国では10年ぶりとなった大規模津波防災総合訓練を実施しました。国連総会本会議における「世界津波の日」制定後初となるこの訓練では、石井国土交通大臣、尾崎高知県知事、岡崎高知市長をはじめとする約3千人、94機関の参加による避難訓練、緊急排水・道路啓開・航路啓開訓練などに加えて、留学生の訓練参加や大使館等による視察などの初めての試みも行いました。訓練にあたっては皆様から多大なご協力をいただきましたことにお礼を申し上げますとともに、今回の訓練を通じて得た成果を生かして、引き続き防災力の向上に努めてまいります。

改めて申し上げるまでもなく、四国地方においては南海トラフ地震や、台風・集中豪雨などによる河川の氾濫や土砂災害などの自然災害に対して、安全・安心の確保が求められております。そのため四国地方整備局においては、昨年の「四国広域道路啓開計画」策定や法令改正によって追加指定された「瀬戸内海に係る緊急確保航路」などにより、道路・航路啓開体制を強化してきているところであります。引き続き四国各県、自衛隊、四国運輸局をはじめとする関係機関との連携を強化するとともに、河川・海岸施設の耐震化や液状化対策、堤防整備や河川改修、「四国8の字ネットワーク

ク」の整備、耐震強化岸壁の整備や高知港三重防護などの施設整備に取り組んでまいります。

また、近年、全国各地で発生している豪雨災害を踏まえ、水防災意識社会を再構築する取組を更に推進することが必要です。昨年より直轄河川において河川管理者と流域の自治体など関係機関が連携し、共通の減災目標のもとにハード対策とソフト対策を一体的・計画的に推進しているところであり、今後、この取り組みを中小河川にも拡大することで、降雨の激化を踏まえたハード・ソフト両輪からなる防災・減災対策を四国全域で進めてまいります。

最後になりましたが、本年も四国地方整備局の業務にご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご清栄を祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

四国地方整備局長

名波 義昭

\*\*\*\*\*

■那賀川床上浸水対策特別緊急事業（加茂地区）  
着工報告式及び現地見学会の開催

【那賀川河川事務所】

阿南市加茂地区は、那賀川の国管理区間の最上流右岸で河口から約1.7Km地点に位置し、約50haの平野に約390戸の集落である山間の農村地域です。

加茂地区は古くから稲作が盛んで近年では、青色LEDの殺菌効果を利用した無農薬栽培のハウスイチゴ、サンチュなどの特産地として県下でも有名で、また、加茂の「一宿寺」から「第21番札所太龍寺」までのへんろ道である「かも道」には地域のみならず県外から訪れる方々も増加しています。

当該地区は、無堤であったため、過去より洪水による浸水被害が頻発し、特に那賀川で戦後最大流量を記録した平成26年8月台風11号では、浸水面積約48ha、家屋浸水が189戸の甚大な浸水被害、また、翌年7月の台風11号においても2年連続となる甚大な被害に見舞われました。

この平成26年8月の台風11号が契機となり、那賀川床上浸水対策特別緊急事業（加茂地区）として採択され、那賀川本川約800m、支川加茂谷川約1,000mの堤防整備等を平成31年度までに集中的かつ緊急的に行うこととなりました。

事業採択後、地元説明会や堤防に関する相談会等の開催において、地域の代表者の多大なるご協力により、概ね1年で9割を超える用地取得ができ、昨年9月より、埋蔵文化財調査が完了した加茂谷川の低水護岸工事に着手したところです。改めて貴重な用地をご提供頂いた地権者の皆様、地域の代表者の皆様のご理解、ご協力に感謝いたします。

この度、堤防整備の一部である加茂谷川の低水護岸や付け替え県道の橋台工事などの進捗により、新しい加茂谷川の形が見えるようになってきたことから、平成28年12月17日（土）、晴天のなか、阿南市、那賀川河川事務所の主催で着工報告式と現地見学会を開催しました。式典には、地域の方々、国会議員、徳島県知事、阿南市長、関係機関など約80名が参加し、はじめに四国地方整備局長の式辞があり、引き

続き阿南市長及び国土交通省治水課長の挨拶、県知事、国会議員の祝辞、那賀川河川事務所長より工事概要説明があり、最後に地元中学生も参加した胴突き式が行われました。その後、低水護岸や橋台工事の現場見学にあわせ、加茂地区で先駆的に実施しているICTを活用した情報化施工の紹介など、地域の皆様をはじめ約60名の方々に進捗等を見学頂きました。

今後とも、工事の進捗報告や地域の皆様からのご意見に対しお答えする「加茂堤防便り」の発行、工事の進捗に応じた工事見学会の開催を継続し、地域と連携しつつ、1日でも早い堤防の完成を目指します。

那賀川では、昨年3月の深瀬地区の堤防整備の完成や本事業の平成31年度までの完成を目指して堤防整備を進めるほか、進行中の長安ロダム改造事業の効果と相まって治水安全度を向上させます。また、既に堤防がある箇所の浸透対策や、南海トラフ地震に備えた地震・津波対策を計画的かつ迅速に対応するとともに、大規模洪水等に備え、危機管理体制の充実を図るなど、安全で安心できる那賀川水系の未来が拓ける川づくりを進めていきます。

\*\*\*\*\*

## ■松山外環状道路インター線 全線開通

【松山河川国道事務所】

松山河川国道事務所・愛媛県・松山市が協働で平成16年度より整備を進めている「松山外環状道路インター線」のうち、古川IC～市坪IC間(延長1.8km)の自動車専用道路部が12月10日(土)に開通しました。これにより、インター線の自動車専用道路部は全線開通しました。

当日は、愛媛県、松山市、松山河川国道事務所の主催により午前10時より開通式典を執り行いました。式典には地元選出の国会議員、愛媛県及び松山市をはじめ周辺自治体の関係者や地元関係者など約120名の方々にご参加いただきました。

式典は、はじめに主催者を代表して名波局長より、用地協力者をはじめとする関係者へのお礼の後、「愛媛県・松山市と連携を図りながら、松山外環状道路空港線の整備を進め、平成29年度に開催される『えひめ国体』までに側道部を空港まで供用することを目指し、引き続き事業を進める。」との挨拶があり、その後、愛媛県知事、松山市長の挨拶に続き、来賓の方々よりご祝辞をいただき、最後に事務所長から工事経過を報告しました。

式典後は、市坪IC付近に移動し、地元の日招太鼓や椿中学校吹奏学部によるブラズバンド演奏の後、テープカット、くす玉開披、椿幼稚園・はなみずき保育園の園児によるバルーンリリースおよび開通記念パレード等が執り行われました。

今回の全線開通により、国道56号から松山IC間の所要時間が20分から4分に短縮され、松山市西部や松前町方面からの高速道路への利便性が向上するとともに、松山市内の渋滞緩和と市内の交通事故削減が見込まれます。

さらには、平成29年9月開催の『えひめ国体』までに松山外環状道路空港線の国道56号から空港までの側道部を開通させることで、国体開催時の選手・役員・関係者の移動への貢献が期待されています。

また、年々利用者が増加している松山空港へのアクセスが向上し、地域のビジネスや地域産業を支援するほか、松山空港や松山港からの輸送時間が短縮されるなど物流

いきいき四国通信Vol. 83（配信版）.txt  
ネットワークも強化されます。

引き続き、地域のさらなる発展を目指して松山外環状道路空港線の早期整備に向け、愛媛県、松山市と一体となって全力で事業に取り組みます。

#### 【参考リンク】

#### ○12月1日記者発表 開通式典等

平成28年12月10日（土曜日）16時に松山外環状道路インター線が全線開通します。

当日、開通式典およびセレモニーを開催します。

<http://www.skr.mlit.go.jp/matsuyam/pres/pres2016/pres/161201intasenkaituu.pdf>

#### ○12月16日記者発表 整備効果（開通直後の交通状況）

国道33号松山外環状道路インター線全線開通直後の交通状況について

<http://www.skr.mlit.go.jp/matsuyam/pres/pres2016/pres/161216intasenkoutuujoyoukyou.pdf>

#### ○トピックス 開通式

平成28年12月10日（土）松山外環状道路インター線の「古川IC～市坪IC」区間の開通式典が行われました。

これによりインター線は、自動車専用道路部が全線開通となりました。

<http://www.skr.mlit.go.jp/matsuyam/tpx/tpx2016/dtl31.html>

\*\*\*\*\*

#### ■四国横断自動車道 津田IC～徳島東IC間の開通目標を公表しました

【徳島河川国道事務所】

四国横断自動車道（阿南～徳島東）は、西日本高速道路（株）が事業を進める四国横断自動車道 徳島東～徳島間と接続することにより、既に開通済みの四国縦貫自動車道や四国横断自動車道と連携し、高規格道路ネットワークの形成と災害時の代替路としての役割を担い「四国8の字ネットワーク」を形成する高規格幹線道路です。阿南～小松島間は平成15年度から、小松島～徳島東間は平成17年度から新直轄方式で事業を進めています。

この度、津田IC～徳島東IC間について、隣接する徳島JCT～徳島東ICの平成31年度開通に引き続き、平成32年度開通の見通しを11月21日に公表しました。

当該区間では、高速道路のストック効果を高めるため、津田木材団地の再整備（平成31年度分譲開始、平成32年度本格操業）と開通時期を合わせることで、地域経済の活性化を支援します。

現在、H28当初予算に加え、二次補正予算でも約36億円の事業費を投入し、高架橋の下部工を施工中です。※未開通区間のIC名称は全て仮称

【参考リンク】

○11月21日記者発表(四国横断自動車道(津田～徳島東)の開通見通しについて)  
<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/report/info28/h281121-3/h281121-3.html>

■16年ぶりの堤防刈草の現地焼却（実験）

吉野川では毎年750万m<sup>2</sup>の堤防除草を実施し、刈草は梱包して一般の方への無料配布を実施していますが、酪農家の減少による持ち帰り量の減少等により処分費が増加傾向であります。

そこで、平成13年度から中止していた、刈草の現地焼却処分の再開が可能か現地焼却実験を行いました。実施場所は阿波市阿波町南谷島地先の堤防で事前に関係自治体、消防署、警察署と打合せを行い、刈草の集積高さ、散水による燃え広がる早さの調整等を確認しながら10月12日に実施しました。

今後、さらなるコスト縮減を図るため、地元の理解を得ながら刈草の現地焼却を増やしていきたいと考えています。

■「Ourよしのがわ ～恵みの川 されど暴れ川～」について

徳島河川国道事務所では、平成28年6月より吉野川の魅力を発信するため、広報誌「Ourよしのがわ」を毎月発行しています。

「吉野川に関する情報を幅広く発信し、さらに吉野川のファンを増やし、吉野川の未来を考える」をモットーとして職員自らが現場に赴き、写真撮影や体験活動、資料収集を行った上で、手づくりで記事を作成しています。

【掲載内容】

主な記事内容としては、沿川市町村を訪ねる「吉野川お散歩紀行」、吉野川にまつわる歴史をわかりやすくひも解く「吉野川歴史探訪」、若年層をターゲットに「吉野川で遊ぼう！！」といった連載記事や、旬な話題を中心に、いろいろな世代が楽しめる紙面構成としています。

事務所HPで公開しており、また、発行情報はメールにて配信しています。事務所等においては、来庁者に手に取って貰えるように紙にて配布しています。

地域活動を行っている主要なメンバーや大学教授、関係市町村を中心に、そこを核として吉野川のファン拡大に努めています。また、口コミ等にて配信先は拡大中です。

【地域の反響】

反響としては、毎日新聞の記者が編集会議の様子を取材に訪れ、その様子が新聞に掲載されました。また、読者からは「次世代に語り継ぐべき貴重な資料として、学生にもぜひ紹介し、HPへのアクセスを通じた情報の共有を薦めたい。」といった感想も寄せられています。

10月8日には、日本地学教育学会からの依頼により、四国大学で「Ourよしのがわ」で紹介した吉野川の歴史について、Ourよしのがわ編集委員会メンバーの職員が出向き講演を行いました。

「Ourよしのがわ」は事務所の取組みのPRも織り交ぜ事業広報の有力アイテムに成長しつつあります。

【参考リンク】

Our よしのがわ

<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/kouhoushi/kouhoushi.html>

\*\*\*\*\*

■高知新港への外航クルーズ船寄港が急増

【高知港湾・空港整備事務所】

高知新港への外航クルーズ船の寄港が急増しています。平成27年度の寄港実績は3隻でしたが、平成28年度は11月末までに19隻が寄港、年度末までにあと3回の寄港が予定（高知県HPより）されており、合計22隻と昨年度比7倍強の寄港回数になります。

6月には、日本に寄港しているクルーズ船の内最大級の大きさを誇る「クァンタム・オブ・ザ・シーズ（約16.9万ト、全長348m、乗客員数4,180人[ロイヤルカリビアンHPより]）」が四国で初めて高知新港に寄港しました。高知県内では、観光客の消費による経済効果のほか、地元住民との文化交流や外国人受け入れ環境の整備など、地域の国際化に貢献しています。

また、平成29年度は今年度を大きく上回る約50隻の外航クルーズ船の寄港が予定されており、高知県では、更なる受入環境向上のため出入国管理などの機能を備えた旅客ターミナルを平成30年までに整備する予定です。

当事務所においては、安全で効率的な港湾機能を確保するために第一線防波堤を延伸しているところであり、地域の経済や観光振興の更なる発展のため、引き続き、事業の推進を図っていきます。

\*\*\*\*\*

四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

\*\*\*\*\*

「いきいき四国通信」に関するご意見等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

<mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp>

《平成27年2月からメールアドレスが変わりました》

\*\*\*\*\* 「いきいき四国通信」事務局 \*\*\*\*\*

「いきいき四国通信」の配信中止・配信先変更のご希望がありましたら、事務局までFAXまたはメールにてご連絡頂きますようお願いいたします。

国土交通省 四国地方整備局 企画部  
【担当】新名、篠崎